



国境を越えた子育て支援

広がれ！ファイバーリサイクル 届けられた衣類は パキスタンの子どもたちの夢と希望を育む種



2010年秋、グリーンコープは、「国境を越えた子育て支援」、「生活困窮者の就労支援」、「衣類のリユース・リサイクル」に取り組むために、ファイバーリサイクルセンターをつくり、独自のファイバーリサイクル事業をスタートさせました。

グリーンコープは、パキスタンの子どもたちが教育を受け自立できるように、衣類を届け、支援をしています。

2017年3月上旬、組合員とワーカーズ職員がパキスタンを訪れ、アル・カイルアカデミーを視察交流しました。今回の訪問を通じて、現地の子どもたちが置かれている厳しい環境と、届ける衣類がどのような支えとなっているのかを知り、理解を深めることも、現地との関係をより強く結びつけることができました。

現地の状況についての報告と、運動の広がりについてお伝えします。

パキスタンの概要

- 首都 イスラマバード
- 人口 1億9540万人(2016年)
- 面積 80万キロ㎡(日本の約2倍)
- 通貨 ルピー(1円≒1ルピー)
- 1日2ドル未満で暮らす貧困層は国民の半数9710万人と推定される。(1世帯の平均年収は約9万円)
- 最大都市カラチには国際古着マーケットがあり、古着流通の拠点となっている。カラチ市の人口は、2751万人。300万世帯のうち、200万世帯がスラム街に住んでいる。

2015年度から、組合員が年1回パキスタンを訪問し交流する取り組みが始まりました。

第2回の訪問となる3月6～11日、アル・カイルアカデミーの本校・分校と、卸売業者の倉庫やフリーマーケットを視察訪問しました。

パキスタンの子どもたちの教育支援

ファイバーリサイクルセンターへ寄付された衣類の約8割はパキスタンのアル・カイルアカデミー事業グループに届けられ、現地の卸売業者に販売されます。その売り上げは、無料の学校アル・カイルアカデミーの運営、教材、給食、自立のための職業訓練などの資金になります。1カ月に1人の子どものかかる費用は1000ルピー。日本から10kgの衣類を送れば、1人の子どもの必要な1カ月の費用が賄えます。

2012年からこれまでに13回、1つのコンテンツに約20トンの衣類を詰め、船で博多港からパキスタンのカラチ市に向けて送り出しています。

2015年度から、組合員が年1回パキスタンを訪問し交流する取り組みが始まりました。

第2回の訪問となる3月6～11日、アル・カイルアカデミーの本校・分校と、卸売業者の倉庫やフリーマーケットを視察訪問しました。

子どもたちの学び舎 アル・カイルアカデミー

アル・カイルアカデミーは、1987年に校長のムザヒルさんが、どんなに貧しい子どもたちにも人間としての尊厳が与えられるべきという思いで、生徒5人から始めた無料の学校です。パキスタンの貧しい家庭の子どものために、親戚や友人から借金を集めて、一人でも多くの子どもたちに教育を受けさせた。現在、本校と分校、専門学校を含めて8つの学校が開校され、3700人を超える子どもたちが通っています。

カラチ本校の様子

今年で開校30周年を迎える本校は、10年制で、3歳から16歳の生徒2千人が通っています。毎年入学希望者が800人ほどいますが、貧しい家庭の子どものみを優先して2000人を超えています。

衣類を届けてください!

みなさんから送られた衣類がファイバーリサイクルの取り組みを支えます。共同購入申込書またはGCwebで専用送り状を注文し、ファイバーリサイクルセンターへ送ってください。

申込番号 **9988**

お近くの「ゆう*あい」ショップでも受け付けています。詳しくはホームページ「グリーンコープファイバーリサイクル」送付方検索

お問い合わせ (092)623-0294



生徒にインタビュー

●アリマさん(16歳)。将来の夢は薬剤師。
「進学して得た知識やお金を学校を支援するために使いたい。校長先生は、教科書には載っていないこと、良い人生とは何か、生きることは何かを教えてください。」

●カズナさん(16歳)。将来の夢は医者。
「今の厳しい暮らしから離れたたい。そのためには教育を受け、一生懸命勉強して医者になりたいと思う。」

グリーンコープ生協会が福岡地域理事長 北口淳子さん

ゴミ捨て場に地主から土地を借りて開校しているキャンパスIIを訪問しました。あちらこちらで物が燃える煙が上がり、煙で視界はかすみ、ハエが多く異臭が漂っている。この場所に、人が暮らしている。今回の訪問は、子どもたちの笑顔が広がるためには私に何が出来るだろうか、グリーンコープの組合員としてできることは、大切な時間になりました。さらに多くの組合員に伝える機会をもち、運動について知らせたいと思います。

井上真紀さん

＊労働協同組合ゆう*あい福岡

実際に現地を訪問して、現地の空気を吸い、街の食事を食べ、スラム街とそこで生活している人々を知り、学校を視察したことで、ムザヒル校長先生が30年間訴え続けてきた教育の重要性や、私たちが取り組んでいる運動の必要性を実感することができました。

あの無政府状態のスラム街、劣悪な環境のゴミの山、そんな中でも一生懸命勉強し、夢と希望を語ってくれた子どもたちのキラキラした瞳は忘れられません。子どもたちがずっと学び続けることができるように、この運動を知らない組合員にもっと伝えていきたいです。今後は、組合員が運動に参加しやすいような仕組みを考えた、地域にもっと広げることができると感じています。

衣類のリユース・リサイクル

ファイバーリサイクルは、衣類のリユース・リサイクルを通じ、グリーンコープが展開してきた4R(リユース・リデュース・リサイクル)運動をさらに豊かに広げる取り組みでもあります。

国内で販売できる状態の良い衣類は、リサイクルショップ「ゆう*あい」やキープ&ショップ等で販売します。ファイバーリサイクルセンター内のショップをはじめ、「ゆう*あい」各店の売り上げは、ファイバーリサイクル事業の継続のための運営費となっています。

生活困窮者の就労支援

グリーンコープでは、生活に困窮する方たちの自立支援として就労支援事業に取り組んでいます。一般就労に向けた準備段階として、ファイバーリサイクルセンターで衣類の分別やパキスタンへの送り出し準備、国内販売用衣類の値付けなどの就労訓練を準備しています。

訓練生は生活のリズムをつくり、コミュニケーション力をつけて、誰かの役に立てる自分を実感する。このことで、社会復帰に向けて意欲を取り戻し、社会参加していきます。



子どもたちが教育が照らす明かりで輝くために

ムハマッド・ムザヒル校長

グリーンコープから送られた衣類の売り上げは年間240万円となり、大変ありがたい。送るだけでなく、顔を合わせ話をし、現地を知ることが大切になっているグリーンコープは、素晴らしいと思う。

私は幼い頃から、貧しい人々はいくらでもいる。お金持ちが社会を支配している世の中が嫌だ。11歳の時から、お金を集めて貧しい人に配ることを始めたが、社会に認められるためには、やはり教育が必要だと思ふ。

学校は、子どもと家族も含めて付き合っている。社会に出た後も元気な姿を学校に来て見せてくれることが、何より嬉しい。

ようになつた。教育を受けることで、自分に自信を持って、言いたいことや考えを自分の言葉で語ることが出来る。教科書に書いてあることだけを教えることが教育ではなく、押しつけではなく、子どもたちが自分で考えること、子どもたちが判断できるように導くことが教育だと思ふ。